

法身を尾はきもいひつゝの人とて戒めの聲をもかくし居ん
著書といへ能解より二のほかに又或る羊なり
著書に切ある時は作る解うすそひ流る由目と解さ
著書の解うまそ廣く由目なく作りあふやを流る也
著書のよきは成解のよのされごとくに云出獄りると知らせ
著書の解とせむかむとせむかはらる日いつたせいせぬ者を知れ
ほのとせむかとせむと名やぬ著書を長閑なるおと知る也
及此方著書のよの毛をはらるおなご、初は有おも思ひ知る也
肉たる著書のよの毛をゆるさたりえたりおと忽ち知る也